

● 科学史と教育の研究会

平林浩さんに まだ、ほとんど知られていない

「最初期の仮説実験授業研究会の研究と活動」について
たっぷり話していただきます

多久和俊明・渡辺規夫・加藤浩幸

2019年度の最後の「科学史と教育の研究会」は、これまで、まだほとんど詳しく解明されていない最初期の仮説実験授業研究会の研究と活動についてたっぷり話していただきます。はじめの研究会とは、どのようなものであったのか、具体的にどのように研究がすすんでいったのでしょうか。参加者の質問にも答えていただきます。平林浩さんから誕生したばかりの研究会についていろいろ聞いて、大いに学ぶ会にしたいです。平林さんもみなさんの協力を得て、「歴史に残せるものはきちんと残したい」という意気込みで、すごくやる気になって下さっています。この会からは、日本科学史学会にも宣伝してよりよいもの、実り多いものにしたいと思います。みなさまの参加をお待ちしています。

平林 浩さん

1963年仮説実験授業の誕生を知り、翌年から最初の仮説実験授業研究会に加わり、たくさんの授業書をつくってきた。教育家。仮説実験授業研究会会員。1934年長野県生まれ。信州大学卒業後、長野県内の公立小学校、東京都の私立桐朋学園小学校、和光小学校（和光学園）で担任や理科専科の教師として勤める。

1988年、和光小学校を退職。そのころ、学校の外で子どもや大人を対象に科学の授業を行うグループが各地につくられた。以降、今日まで“出前教師”としてそれらのグループで授業を続けている。そのグループのひとつである「かがくくらぶコスモ」は、2008年に第4回小柴昌俊科学教育奨励賞を受賞した。

著書に、『しのぶちゃん日記』（太郎次郎社）、『仮説実験授業と障害児統合教育』（現代ジャーナリズム出版会）、『あてずっぽうと科学』（桐原書店）、『作って遊んで大発見!不思議おもちゃ工作』、『平林さん、自然を観る』（以上、太郎次郎社エディタス）など、共著に『イメージと科学教育』（績文堂出版）がある。

『スズメバチの生き方はこんなにおもしろい! 「仮説実験授業」の方法で学びあう』

(2019年、おもに同書著者略歴から)

3月21日(土) 11:00～17:00頃 平林さんの講演
17:00頃～18:00 資料発表

※ お昼の用意をしてきてください。雑談しながら食べます。近くにコンビニ等あり。

※ 資料ある方は15部用意して下さい。今回はあまり時間はありません。資料名と発表希望時間は前日までにお知らせください。

※ 会場は仮説社・山猫ラウンジです。(JR山手線・地下鉄・巣鴨駅から徒歩2分)

多久和俊明 自宅 0480 38 3264 携帯 08065989477 mxrhp118@yahoo.co.jp

定員 15名 (先着順 電話かメールで) 参加費 2000円